

1 注意する病害虫 ～トマト黄化葉巻病とコナジラミ類～

トマト黄化葉巻病

今作はトマト黄化葉巻病が、山武地域北部で既に発生しています。タバココナジラミを始めとしたコナジラミ類の防除に注意してください。

<対策>

- ①ほ場周辺の除草
- ②適期の薬剤散布（台風や強風の前後は特に）
- ③黄色粘着板の設置
（防除効果を上げるには坪2枚以上設置することが理想です）

【薬剤はローテーション散布をしましょう】

薬剤は、系統の違う薬剤をローテーション散布する。下の表を参考に毎回違う色の薬剤を使用する。

※気門封鎖封鎖系（エコピタ・サンクリスタル等）は、害虫の密度が高い時期に併用すると効果的。



農薬名	希釈倍率	使用回数	使用時期	系統	備考
アドマイヤー水和剤	2000倍	2回以内	収穫前日まで	ネオニコチノイド系	
スタークル顆粒水溶剤	2000～3000倍	2回以内			
バリアード顆粒水和剤	2000～4000倍	3回以内			
ベストガード水溶剤	1000～2000倍	3回以内			
ダントツ水溶剤	2000～4000倍	3回以内			
アニキ乳剤	1000～2000倍	3回以内	収穫前日まで	マクロライド系	
アフーム乳剤	2000倍	5回以内			
アグリメック	500～1000倍	3回以内			
コロマイト乳剤	1500倍	2回以内			
ディアナSC	2500倍	2回以内	収穫前日まで	スピノシン系	
コルト顆粒水和剤	4000倍	3回以内	収穫前日まで	その他	遅効性
エコピタ液剤	100～200倍	-	収穫前日まで	気門封鎖剤	かからないと効かない
サフオイル乳剤	300倍	-			
サンクリスタル乳剤	300倍	-			
ベネビアOD	2000倍	3回以内	収穫前日まで	ジアミド系	薬害等注意
モベントフロアブル	2000倍	3回以内	収穫前日まで	環状ケトエノール	成虫効かない、残効長い
ファインセーブフロアブル	1000～2000倍	3回以内	収穫前日まで	その他	コナジラミは苦手
トランスフォームフロアブル	1000～2000倍	2回以内	収穫前日まで	スルホキシミン	
グレーシア乳剤	2000倍	2回以内	収穫前日まで	イソオキサゾリン	

黄化葉巻病が発生したら、抜き取るか地際から切断し、ハウスの外に持ち出します。その上で焼却処分するか、土中に埋めましょう。農薬を使用する際には、必ずラベルを確認しましょう。

2 今後発生が懸念される病害（褐色輪紋病）

(1) トマト褐色輪紋病の特徴

4年前の9月は連続した曇雨天があり、ハウス内が高湿度条件で推移したことや、防除作業が遅れ気味となったことから、褐色輪紋病が大発生しました。今年の長期予報では、9月は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。7月中は曇天が続いたこともあり、今後、着果負担がかかってきますので決して油断はできません。

トマト褐色輪紋病の発病適温は20～30℃で、病原菌は高湿度の環境を好みます。48～72時間の多湿条件があると多発生となるため、曇雨天が2日続いたら発生がみられなくても薬剤散布を行って早期に対策をしましょう。



① 褐色輪紋病の発生症状

下葉から枯れあがり、病気の進行と共に上位葉まで枯れ上がります。



② 葉の病徴

葉の黄化と極めて多数の小褐点～黒褐点が生じます。

(2) トマト褐色輪紋病の防除方法

① ハウス内の環境改善と草勢回復

- 悪天候の日は灌水を控える。
- 天候が回復している間は、ハウスの開口部を広くし、換気を促す。
- 葉が混んでいる1～3段（2本仕立ては特に）を摘葉し、通気性を確保する。
- 遮光ネットを使用している場合は、取り外す。
- わき芽は放任せず、1～2芽残して摘みとり、場合によっては追肥やかん水により草勢の維持を図る。

② 薬剤散布

褐色輪紋病に登録のある薬剤はありませんが、葉かび病や灰色かび病で登録がある農薬で同時防除が可能です（参考：九州農業研究・第67号（2005.5）病害虫部会）

褐色輪紋病に効果がある薬剤

薬剤名	登録内容		希釈倍率	収穫前日数	使用回数
	葉かび病	灰色かび病			
ダイマジン	○	○	1500	1日	3回
ゲッター水和剤	○	○	1000～1500	1日	5回
ジャストミート顆粒水和剤※		○	2000～3000	1日	合計3回以内
セイビアーフロアブル20※		○	1000～1500	1日	

※ ジャストミート顆粒水和剤とセイビアーフロアブル20には、同成分（フルジオキサニル）が含まれており、総使用回数は合わせて3回迄ですので注意してください。